



茂木京さん

今回は、かつて「英語活動の課題推進校」に指定され、現在も積極的に英語活動に取り組んでいる東京都大田区立池雪小学校で継続的に「英語活動ボランティア」として活動されている茂木さんの実践報告です。

J-SHINE 通信

2014年8月号

児童英語講師歴15年。民間スクールにて、幼児から高校生まで指導。2008年より小学校英語活動に携わる。J-SHINE上級指導者資格保持。

■ J-SHINE資格及び上級指導者資格取得のきっかけ

7歳の時に父親の転勤で渡英し、はじめて英語と出会いました。現地の小学校へ入学し、「歌」「絵本」「ゲーム」「劇」などを通して、まずは感覚的に英語を吸収したということが私の英語学習のベースになっています。そのときの経験と思い出が児童英語講師という職業に就く大きなきっかけになったと思っています。出産後の休職中、自身の指導力向上のため通信学習で「児童英語教師養成コース」を受講し、J-SHINE資格を取得しました。その過程で、普段スクールで指導している少人数クラス（最大8名）だけではなく、小学校のような規模でも指導してみたいという気持ちが芽生えました。また、小学校で触れる英語が、その先の中学校英語にどのように生かされていくのかという点にも大変関心がありました。

同じ時期、長男が進学した大田区立池雪小学校で「英語活動ボランティア」を募集していたため、迷わず応募しました。池雪小学校は、過去に「英語活動の課題推進校」に指定されていたこともあり、1年生から英語活動を行っていました。教材も豊富で、授業で使用できる大型絵本、CD、カード、テキストなど全て揃っていました。授業は、1-4年生は年10回、5、6年生は年35回（主に外国人講師が担当）設定されており、ボランティアは、1-4年までの英語活動、および、5、6年の活動で、外国人講師が派遣されない時の授業を担当します。（2014年度は、1-4年まで担当予定）。

■ 現在の活動状況

年度始めに、授業の日程や年間プランを担当の先生方と話し合ったあと、実際の授業内容をボランティア側で決め、授業もボランティア主導で行っています。一学年5、6クラスある大規模校なので、各学年2、3名のボランティアが担当することになっています。現在、全学年で15名ほどのボランティアがおり、主に、自分の子どもがいる学年を担当していますが、学年によって人数も違うため、他学年のヘルプとしてレッスンに入ることもあります。定期的な連絡を取り合いながら、レッスンアイデアをシェアしたり、活動するにあたっての課題を話し合ったりしています。

必要な教具やプリントは、あらかじめ担任の先生方をお願いして用意していただいています。ハロウィーンやクリスマスの時期は、スペースの大きいプレイルームなどを利用して、合同のパーティー

なども実施しています。英語活動を学校全体で推奨していく雰囲気があるため、大変やりやすい形で実施できていると思います。以前、高学年で実施した「英語で書き初め」は、児童も先生方も大盛り上がりでの授業となりました。普段から実施している科目でも、「英語」を取り入れることで新たな魅力が生まれることもわかりました。また、英語活動を保護者や地域の方にも広く理解していただくため、学校公開の授業に、ボランティアによる英語活動を入れていただいています。

ボランティアとはいえ、英語の授業を全面的に運営していくという責任は重く、それゆえに大変やりがいを感じています。先生方との密な交流も増え、子ども達との関わりも深まります。昨年度、1年生から英語に触れてきた子ども達に、6年生の最後の授業で、「自分の夢を英語で発表する」機会を作りましたが、どの児童も自分らしく、自信をもって英語で自己表現できる姿を見ることができました。「英語が楽しかった」「中学からの英語が楽しみ」「英語を生かした職業に就きたい」という意見を多数いただき、続けてきてよかったと実感しました。

■ 今後の展望・目標

「2020年から公立小学校で英語を教科化する」案を始めとし、日本の英語教育に関する新しい動きに常に関心を抱きながら活動していく必要があると考えています。今後教科化された際、子ども達が「英語を、誰に教わるのか」がとても重要な鍵を握っていると思います。また、学ぶ先にある中学校英語との関連性も、今以上に深めていく必要を感じます。あらゆる点で課題が山積みだと思いますが、様々な制度が整うのを待っていたら、1年生の児童は、あっという間に6年生になってしまいます。子ども達が「英語の翼ではばたく」ことが最大の目標であれば、私たち指導者は、あとは行動するのみ。今までの経験と知識を生かし、自ら地域に働きかけ、活動の場を見いだしていく選択をし続けたいと思います。

小学校において英語教育が「必要」「必要でない」と繰り返し議論されていますが、それ以前に、「英語」に触れることは、今まで知らなかった世界とつながり、新しい価値観や考えに出会うという純粋な喜びがあると思います。そのことは、実際に子ども達と接していて一番強く感じる点です。外国語学習の原点を自分自身も忘れることなく、愛と情熱を持って今後も英語教育に携わっていきたいと思います。